

董美人墓誌銘

原石全精拓本

李鴻裔跋

辛亥歲
木齋堂藏

美 人 董 氏 墓 誌 銘
美 人 姓 董 汗 州 恤 宜 縣
人 也 祖 佛 子 齊 涼 州 刺
史 敦 仁 博 沽 標 譬 鄉 間



「落ち穂拾い記」② 『美人董氏墓誌銘』(中)

1998年・嘉徳・春オークション(図版②)



1996年・翰海オークション(図版①)



美人董氏墓誌・原石拓家蔵本(図版③)



美人董氏墓誌・原石拓家蔵本(図版④)



『美人董氏墓誌銘』の原石拓本を直に手に取り目したのは、1988年に開催された「中国書法名品展」で北京文物局所蔵作品の選別するお手伝いをした時である。清末の名家・劉燕庭旧蔵の軸装の擦拓整本である(図版①)。この拓本は、その後、北京の翰海オークションで1996年に売りに出された。入手したくて参加したが瞬く間に希望価格を超えた。2年後、北京の嘉徳の春のオークションに見事な剪装本に仕立てられたやや淡墨の擦拓の原石拓本が出品された(図版②)。前回のこともあり高く購入できないと諦め、親しい関係者にお願いして写真を撮らせていただき、それで満足した。不思議なことに開催されたオークションでは、希望者が無く売れなかつた。後で知つたことだが、事前に諦めたことを後悔した。その年の秋、いつもの様に神保町古書店回りの後に立ち寄る栄豊齋で店長の佐野さんが落札さんと雑談をしていたときに、明日上海に行きますと何か用がないですか言つて、梁雲軒のオークションカタログを見せられた。古籍善本の中に春に北京の嘉徳に出品された、あの『美人董氏墓誌銘』が出ているのを見つけた。是非とも購入したいとお願いした。しばらくしてあの北京で諦めた『美人董氏墓誌銘』の原石拓本を佐野さんが落札してくれた。ようやく原石拓本入手できた。擦拓のやや淡い拓調の精本であり、拓紙の破損もなく文字の全体は、完全である(図版③)。楠木の表紙で周囲を細い唐木で縁取った表紙で、虫損などの汚れの全くない典雅な剪装本であった(図版④)。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2021)



奥 原 翠 嵐

来た道を振り返り思い出を語る年齢になってしまった。恩師、岩垣翠城先生との出会いがあつたことが、今まで私が書道を離れずに続けてこられた要因の一つである。明治生まれの気骨ある先生は、私にとって強烈な印象ばかりが残っている。その授業での講義メモを記した教科書は、50年以上経った今でも私の本棚から消えていない。

書道が好きだという気持ちから、勤め始めたすぐ、先生が開設された間もない山陰蘭亭書道研究所へ入門した。そこで古典を学んでいるうちに逆に疑問が湧き、分からぬことが増えていった。その頃、丁度良いタイミングで門下に集まつた若い人たちや同世代の書道を学ぶ人たちで、古典の学

習を大切にする「蘭芝会」を発足することになった。それは社中組織ではなく純粹な学習の会であり、岩垣先生もその趣旨を理解し、応援してくださった。蘭芝会は、月1回の勉強会と、その成果を、年1回の作品展(臨書・創作)と、古典のレポートの発表をするものであった。この活動を30年間続けたことが私の書道のレベルアップに大いに役立つた。その間に、私は夫の転勤に伴い島根県松江市に転居した。当分の間、子どもたちは幼い上に知人もなく、書道を続けることが苦しい時期もあつたが、先生から求められた「書道芸術院展」への継続出品の約束と、蘭芝会への参加があつたことに救われる思いだった。暫くして松江で

おられ、蘭芝会も活動休止になり、何年間かは暗澹とした気分になっていた。この気持ちを持ち打ち破ることになったのは、学校勤務を退職された名越蒼竹先生に師事することが叶つたことである。振り返れば、松江から倉吉へ通い続けた34年間は、書道を愛するがために、至福と苦悶が交錯する時であつた。

名越先生には、書道に対し情熱と冷静さの両面を兼ね合わせたご指導をいたぐりにつれて、終わりのない膨大な書の世界に、私が一步足を踏み入れたときより、50数年経つた今の方が遊びたいことの多さに気付かれ、呆然とする今日この頃である。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第72回毎日書道展北陸展・東北仙台展・関西展など地方展開幕へ

第72回毎日書道展は、現下の新型コロナウイルスの蔓延第5波の猛烈な広がりにも負けず、各地方展が順調に開催へと漕ぎつけている。

富山県を中心とする北陸展は8月22日から25日まで富山県民会館にて、本院評議員大石仙岳氏が実行委員長を務められ、無事開催。各種の催しはほとんど中止となつたが、開幕式・入賞者を祝う顕彰式などは予定通り開催された。東北仙台展はコロナウイルス蔓延のため9月12日までの緊急事態宣言中の9月10日から12日、仙台メディアセンター会場使用を止められ、会期は13日から15日までに短縮されながらも、展示作品1000点余により開催された。実行委員長を本院評議員太田蓮紅氏が東北展としては初の女性委員長として大役を務められた。仙台展では会期短縮もあり、各種催しは全て見送りとなつた。会期が3日間と短縮されたが、ともかく開催できることを喜びたい。実行委員長の心労は如何ばかりであったか、ご推察申し上げたい。

関西展は新装なった京都市立美術館「京都市京セラ美術館」ほか2会場で開催。23日には顕彰式が2回に分けて

開催され、担当理事として前日の今期初日の視察と共に辻元大雲が参列した。関西展は地方展として最大規模を誇り、展示作業などは大変な労力と時間を要する。本院会員各位のご協力ご支援に感謝申し上げたい。



毎日書道展関西展顕彰式会場にて

活動を継続されてこられた玄遠社展が、昨年開催を見送り本年70回記念展として華々しく開催された。会場の大坂市立美術館地下1階の広大なフロアに展開された書展は、主要幹部作家、会員作品と共に日韓交流書道展出品の日本・韓国代表作家の作品も含め多彩で、充実した展覧であった。併催の学生書道展作品は小型条幅サイズに、元気よくまた丁寧に書かれた秀作が所狭しと展示され、充実した併催展示であった。

9月12日(日)午後から会場近くの天王寺都ホテルにて表彰式が、折からのコロナウイルス蔓延の影響を考慮して参加者を縮小して行われ、本院を代表して祝辞と賞状授与のお手伝いをさせて頂いた。受賞者の皆さんのが笑顔が素晴らしい、心温まる式であった。さらに式後、70回展を記念する講演会が開催され、ご依頼により玄遠社の越し方と将来に向けて、恩地春洋・小伏竹村・小林琴水の三先生が30数年前に「書道芸術」誌に発表された隨筆などを資料にお話しさせて顶いた。

創立者川崎梅村(白雲)先生の創立精神は今現在どう継続され、発展へとなるがっているのか。私たち書道芸術院に所属する者にとっても大きな命題となることであり、改めて私自身に向ける自戒の想いを込めてお話しさせて顶いた。

玄遠社展70回記念 祝賀会・記念講演会開催

関西を中心に本院創立以来中心的な

おられなくなってしまった寂しさも言外に感じつつ、身の引き締まるお話をいただいた。

合わせて1時間半弱の短い時間ではあつたが、玄遠社の創立精神を改めて確認し、今後への展望、課題を考えさせてくれる貴重な時間であった。

「書・六人展」作品集収録DVD・別冊頒布のお知らせ

9月1日から7日まで、上野の森美術館にて開催した「書・六人展」作品集は初日に売り切れとなりご迷惑をおかけしました。作品集図版を全収録し、会場風景・ユーチューブ動画の一部を収録したDVD(送料込み1000円)、別冊(評論・座談会掲載)のみB5版縮小増刷(送料込み1000円)を作成します。お申込のみは辻元大雲まで。(院FAX・はがきで)

下谷洋子個展「上州の韻きこよなくかな」作品集頒布します。
銀座和光で大きな反響を呼んだ同展の作品集若干の在庫を提供していただきました。ご希望の方は同じく辻元大雲まで院FAX又ははがきにてお申込みを。一冊2000円(送料込み)
*申込期限10月末日までに。

秋季展特設ページのお知らせ
(10月5日(火)より公開予定)
<http://www.shogei.shop/autumn/>



かな基礎基本講座(17)

下谷洋子

かなの書式① 散らし書き

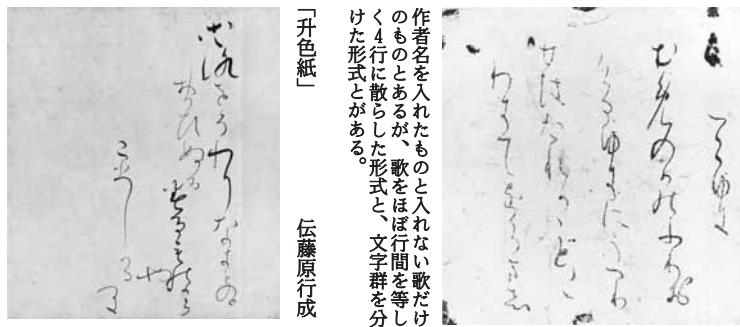
平安時代の名筆には、部分的に散らし書きによって書かれたものもたくさんありますが、今回掲載の三色紙は、散らし書きのみによって書かれた古筆です。

「寸松庵色紙」

伝紀貫之

「縦色紙」

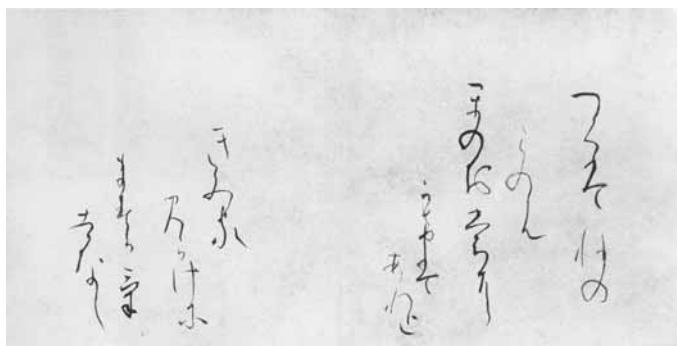
伝小野道風



作者名を入れたものと入れない歌だけのものとあるが、歌をほぼ行間を等しく4行に散らした形式と、文字群を分けた形式とがある。

「升色紙」

伝藤原行成



作者名を入れたものと入れない歌だけのものとあるが、歌をほぼ行間を等しく4行に散らした形式と、文字群を分けた形式とがある。

多彩で独特な散らし書きは、他の古筆にはあまり見られない。行をからまされたり、重ねたりしたものもある。

現代詩文書基礎基本講座(17)

小竹石雲

「古典からの発展」はまだ続ぎますが一息入れ、今まで学んだ古典

を左記の3種類(各々二通り)の書風に分類して創作してみました。

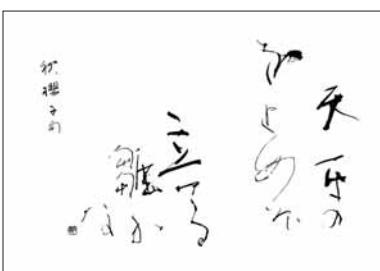
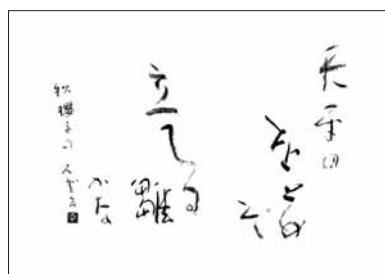
②

すが一息入れ、今まで学んだ古典を左記の3種類(各々二通り)の書風に分類して創作してみました。

②

- I 繊細、流麗さ
II 素朴、大らかさ
III 迫力、豪放さ

I 繊細、流麗さを意識した作例
积文 天平のをとめぞ立てる雑かな
作者 水原秋櫻子



- ・筆……超長峰羊毛
・筆鋒の弾みを利かし、筆致を厳しい線にすることで白の美しさを求めた。

- ・筆……長峰
・あまり墨量を多くせず、控えめにし、ゆっくりと、季節を楽しむ雰囲気で書いた。
・出だしは墨を少なくし、2行目で加墨し、落ち着きのある流麗さを狙った。そのため墨は淡墨にした。

- ・①同様、高低の変化は行頭のみにした。
・余韻を意識して、テンポのよい動きとは相反し、間を外した動きにした。

- 右に上の句を書き、下の句を記す。形式が多い。反対に、左に上の句を書き、右に下の句を書いた形式(逆勝手)又は戻り書きと呼ぶ)などもある。

- たりと筆を運ばせた。
・行間に広狭の余白をとり行尾を揃え行頭に高低の変化をつけた。

- たりと筆を運ばせた。
・行間に広狭の余白をとり行尾を揃え行頭に高低の変化をつけた。

令和3年度 新審査会員作品

II

齊藤 恭子（現）・桐林 狐无（漢）・早坂 萌香（前）・平田 悅子（前）



齊藤
恭子
(宮城)

「高野ムツオの句」



審査会員にご推挙いただき

ありがとうございます。ご指導いたいであります熊谷宗苑先生、宮城野書人会の先生方に深く感謝申し上げます。作品は同郷の俳人の句を、言葉の持つ表情を大切にし情景が浮かぶよう心がけて書いてみました。何分にも未熟者でですので、ご指導の程お願い申上げます。

（恭子）



早坂
萌香
(宮城)

「精」

この度は、思いがけない審査会員にご推挙いただきましてありがとうございました。白い紙に白が創り出される瞬間を目の当たりにした時の感動を忘れずに一層精進して参りたいと思い、作品を「精」にしました。いつもご指導くださる木村貴衣先生と書友の皆様に感謝申し上げます。

（萌香）



平田
悦子
(愛知)

「感謝」

前衛書に憧れ馨香会へ入門しました。香川倫子先生、三森慧香先生の熱い厚いご指導をいただき、諸先輩にも恵まれ、この度の昇格のお知らせは夢の様です。心より感謝申し上げます。これからもなお一層精進して参りたいと存じます。

（悦子）



桐林
狐无
(千葉)

「馬王堆漢墓帛書」



篆書から隸書への過渡期。造形美に魅せられ早や12年。泥と膠の調合に四苦八苦しながらも研究を続け、その成果が細字の筆法の向上へと繋がった事を実感し感動。研究熱心である一方で、サボリ癖もあるので、そんな自分で喝を入れつつ、今後もより一層精進して参りたい所存です。

（狐无）



齊藤
恭子
(宮城)

「高野ムツオの句」

※令和3年度の新審査会員の紹介を終了いたします。

（萌香）

（悦子）

いとないじんのうがんなん
伊都内親王願文

(平安・833年) ①

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。
 A. 大作の部 (晉展審査員・会員サイズ以内、2×6尺・金紙も可)
 B. 小品の部 (半切以下・正切以内・縦横68×68以内奇縦奇偶)
 当該古典の左記掲載部分以外も可。



宮内庁保管

(掲載図版・65%に縮小)

※落款を必ず入れる。
 署名、もしくは○○臨
 (押印のみも可)

〈解説〉 伊都内親王願文は、
 桓武天皇の第8皇女、伊都内
 親王(阿保親王の妃、?~861)
 が天長10年(833)9月21日、
 生母の藤原平子の遺言によつ
 て、藤原氏の氏寺である山階
 寺(現在の奈良興福寺)の東
 院西堂に香燈および説経料
 として墾田十六町ほかを寄進
 した祈願文である。

この願文は、江戸初期の能
 書で賀茂流の祖藤木敦直が
 鑑定して以来、三筆(他に空
 海・嵯峨天皇)の一人橋
 逸勢の筆と伝えられているが、
 逸勢の確実な遺墨が伝存しな
 いため確証はない。楷書・行
 書・草書の各体を巧みに用い、
 また緩急抑揚が自在で雄渾な
 書風が特徴である。(編集部)

かな研究部臨書課題

B.A.

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
 別紙を裁断して貼付も可。半紙は半紙サイズに切って使用のこと。
 左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

大作の部

毎日展審会員

会員サイズ以内

2×6尺

全紙も可

△切以内

約68×68cm以内も可

(縦横自由)

△当該古筆の左記掲載部分以外も可

※掲載図版・80%に縮小

よみ
 きのみづらゆき
 かはかぜのすゞしくもあるかうち
 よするなみとゝもにやあきは
 たづらむ
 だいしらづよみ人しらず
 わがせこがころものすそをふ
 きかへしらめづらしき秋の
 はつかせ

<解説>

関戸本古今和歌集は、「古今和歌集」の写本で、もとは上下二巻の綴葉装の冊子本であった。名古屋の素封家の関戸家に零本(27紙)が伝存する。これは加賀前田家の伝来で、明治15年(1882)に関戸家に入り、以来、この名で呼ばれる。現在では、関戸家の零本のほか、断簡として諸家(徳川美術館、畠山記念館、五島美術館他)に分蔵されている。関戸本古今和歌集は、数色の美しく染色された料紙が豪華に使われていることなどから、当時の貴族の調度手本か贈答品であったとされている。

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しま
 しよべ。
 ○○臨(押印のみも可)

(編集部)

(個人蔵)

※落款を必ず入れる。

○○臨(押印のみも可)

小竹石雲

弄巧成拙

(耶律楚材)

(巧を弄して拙と成る)

うまくやろうとして技を弄し、
かえってまずい仕上がりになる、
の意。

語句の意を汲み取って極力小手

先の仕事にならないように心がけ
た。

- 筆先が紙を噛んだら、気持ちと運筆との一致をはかる。
- 力まず悠然と紙に向かえるとよいが、ついつい体に力が入り筆が働かなくなるので注意したい。
しかし気力が充実してないと弱くなる。
- 筆は羊毛中鋒を使用した。毛質、
鋒の長短でさまざまな線が生まれる。
- ねらいをもった作品創りが大切。
一作毎精魂こめて書こう。



弄巧成拙 よみ（巧を弄して拙と成る）

書体＝自由

五風十雨
(五風十雨)
〔論衡〕

前田龍雲



書体＝楷書



〈雁塔聖教序〉

五風十雨とは世の中が平穏無事であるたとえ。また気候が穏やかで順調なこと。この本が発行されたときやすいであろう初唐の三大家の1人である褚遂良の「雁塔聖教序」を参考に書きました。線の途中に変化を持たせ、息が長く、そして行意が少し入っています。起筆は緩やかに、転折はなで肩、ゆったりした気分で伸び伸びと運筆しましょう。細い線はどうしても弱くなりがちなので、筆圧がかかるよう筆を立てて書く注意が必要です。

初心者にも比較的興味を持つていただきやすいであろう初唐の三大家の1人である褚遂良の「雁塔聖教序」を参考に書きました。線の途中に変化を持たせ、息が長く、そして行意が少し入っています。起筆は緩やかに、転折はなで肩、ゆったりした気分で伸び伸びと運筆しましょう。細い線はどうしても弱くなりがちなので、筆圧がかかるよう筆を立てて書く注意が必要です。

かな規定 初段以上【十一月十五日締めきり】用紙 半紙普通判（料紙可）

木村東舟選書

習い方解説

木村東舟

かぜふ 風吹けば玉散る
はなむけのした露に
はかなく宿る 野べの月かな
(藤原忠通「新古今和歌集」)

「風が吹くと玉の散る萩の下露に、
ほんのつかの間だけ映る野辺の月
の光よ」の意。

かなの作品は、縦の流れを出すことが大切です。必要に応じて幅のある横画を入れることにより、1行の中での広狭の変化を表現することができます。

文字と文字との間の余白のとり方に加えて、1文字の中での間のとり方も考えたいものです。

また、隣の行との釣り合いはどうか、大きな文字同志のぶつかり合いかないか、リズム感などにも気を配り、線を詰め過ぎず空気の通えるよう爽やかな作品に仕上げて下さい。



創作

*料紙は半紙版(33.0×45.5cm)を使用しましょう。

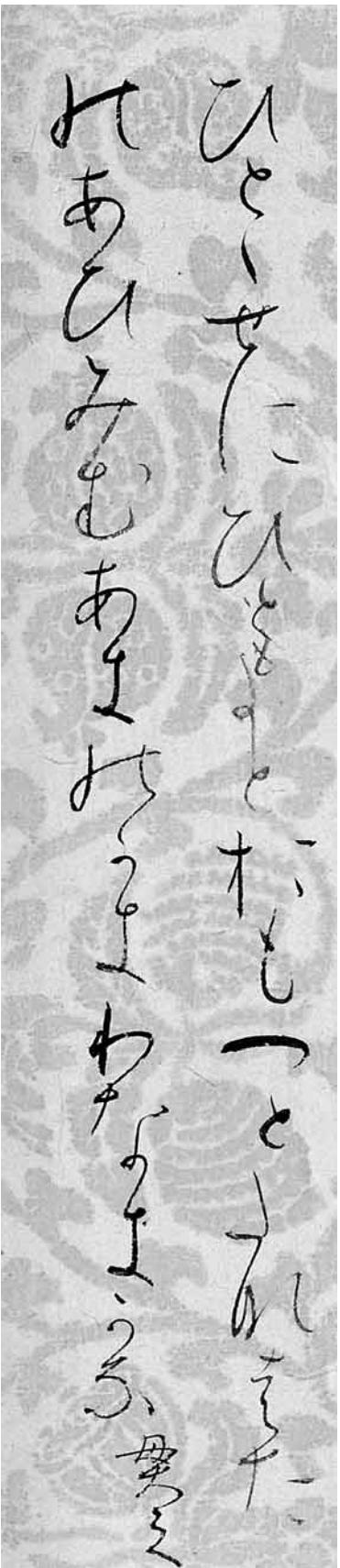
よみ方 風(かせ)吹け(希)ば(八)玉(多方)散(遅)る萩の(乃)した(堂)露(つ遊)に(一)
は(者)か(可)な(那)く(久)宿(やと)る野(遍)の月か(可)な(奈)

よみ方

かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿または単体を含む）を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 ひとせにひとよとお(於)もへどた(多)な(那)ば(者)た

の(能)あひみむあき(支)の(能)か(可)ぎ(支)り(利)なき(支)か(可)な(奈)貴(之)

習い方解説 (一)

佐藤 希雲

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

佐藤 希雲 選書

秋の田のいねでふこともかけなくに
何をうしとか人のかるらむ
(兼芸法師「古今和歌集」)



秋の田の稻ではないが、「飽きたから去ね」と言葉をかけてもないのに、何がいやだといって、あの人は私から離れていくのだろうか、の意。
作例はあっさりとした感じになりました。各自、工夫してください。

よみ方 秋の田の(能)いね(年)てふこともかけ(介)な(奈)く(久)に
何(那尔)をうしとか(可)人のか(佳)るらむ(无)

創作

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (一)

名 越 蒼 竹

萬里來游還望遠
年もひ難更憑危

萬里來游還望遠 三年多難更憑危
(陳與義詩「登岳陽樓」)
(万里 来游 還た遠きを望み、三年 多難 更に危うきに憑る。)

書体=自由

6回シリーズで行草書のまとめ方について紹介していくと思いまます。行草書の魅力は、自由・気楽で動的な雰囲気にあると思います。それは字形の歪みや大小の変化、運筆の速さや筆圧の変化をもたらす、動きの柔らかさから生まれます。今月は文字の大小や線の細太変化が特徴的な劉石庵の書風を参考にして書いてみました。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (一)

川 島 舟 錦

筆覗得佳友
舟錦書

書体=自由

半紙も大きいサイズの作品も、人柄や生きざまが出るんだなあと、いいよいよ感じるようになりました。文房四宝に助けられて、コツコツ取り組むことが大切であることも、よき師匠や仲間に恵まれていて、とにかく感謝しながら、作品作りに苦しみもがいても、足りない時間を悔やむことなく前進したいもので

筆覗得佳友
(筆覗得佳友を得)(王棕)

生きと生けるものは

みな父母である

カーヒ眼をもつてこれを観すれば一切の衆生はみなこれもが親なり。

(教王経開題)

輪廻というサイクルの中では親子も同然

琴水書

生きとし生けるものは
みな父母である
もし恵眼をもつてこれを観すれば一切の衆生はみなこれもが親なり。
(教王経開題)
輪廻というサイクルの中では親子も同然

空海「黄金の言葉」より

△用紙 ハガキ大(14×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにこぼしが見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

小林琴水

仏の眼で世界を觀れば、すべての人、すべての生きものが自分の親である。命つながりをたどっていけば、生きものはみな親と同じであり、尊ぶべき存在だと空海は言っています。

仏教に少しられた人なら素直に頷けるかも知れません。

「注意!! 用紙の大きさにこぼしが見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

錦秋 菊花 ご清祥 実りの季節
錦秋 菊花 ご清祥 実りの季節

秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め
秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め

岩垣若翠

(楷書) 錦秋 菊花 ご清祥 実りの季節
(楷書) 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め

(行書) 錦秋 菊花 ご清祥 実りの季節
(行書) 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め

基本用語 「錦秋」秋の紅葉に彩られた風情を表す頭語。

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を

(掲載手本90%に縮小)

◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

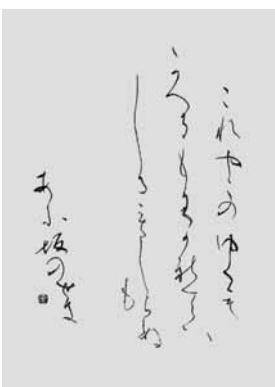
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品 各部総評

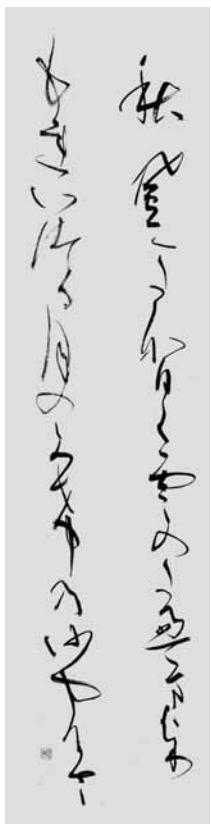
NO. 724

かな部 師範 篠田恵美子
前半の流れるよう柔軟な運び
が格別で、針切を彷彿とする。し
の扱いと墨縁の箇所一考したい。
◎かな部総評 全体には誤字も少
なくよく仕上げていたが、やはり
小さく細すぎる作品も相変わらず
多い。料紙を用いたい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 関谷香代子
渴筆を主体としたねばりある筆
致が、柔らかな温かみを醸し出
ている。滋味ある作品。

◎漢字条幅部総評 上級20字表現
は字配り等に苦労されたか。小ぶ
りな表現多し。下級を含め大小、
粗密の変化の工夫を。(大雪評)



かな条幅部 師範 関口やよえ
潔い線質で快い。独自のリズム
感に押しつけがましさは微塵もな
く引き込まれてしまう。上品な作。



◎かな条幅部総評 よく理解した
表現が多く好感が持てた。字粒過
大、墨量过多が散見し残念。墨汁使
用は厳禁。全て丁寧に。(明子評)

牧場の朝の霧の海
ただ一面に立ちこめた
雲が鳴る鳴るかんかんと
黒い底から昇る
唱歌「牧場の朝」みく書



◎かな条幅部総評 漢字かな
のバランスと行間に留意
して、さらに躍動感を。(孝子評)

◎ペン字部 師範 浅川 みよ
凛とした線質が魅力。流麗なペ
ン捌きで、豊かな深みのある作品
となつた。日頃の鍛錬に敬服。

◎ペン字部総評 誤字も少なく、
よくまとまった作品が多かった。



漢字部 師範 栗原 華泉
鍛錬を積んだ技量が窺える。手
慣れた筆法が生む線はしなやかで
上質。優美な草書で魅力的です。
◎漢字部総評 上級は多様な表現
の作品が見られた。幅広く学び
その鍛度を上げる事が大切。広く
深く積み重ねて下さい。(萬城評)

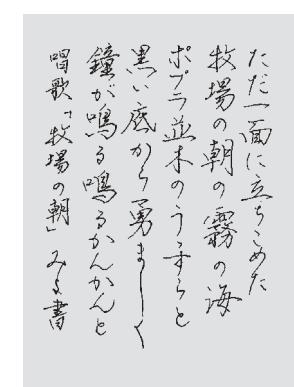


前衛書部 特選 貝瀬 佳楓
淡墨にのせた濃墨のシャープな
線が画面をひきしめ、余白の美し
さを効果的にみせて います。

◎前衛書部総評 少し鈍重な感の
する作品が多く見受けられました。
紙を切る線の鍛錬を。(誂韻評)

◎現代詩文書部 特選 柿沼 彩香
文字の大小、墨量の微妙な変化
が自然で、運筆のリズムも優しく、
詩情が心に沁みてくる。

◎現代詩文書部総評 意匠を凝ら
すこと必要だが、古典等での基礎
学習を活かして欲しい。(邑峰評)



漢字条幅部 師範 関谷香代子
渴筆を主体としたねばりある筆
致が、柔らかな温かみを醸し出
ている。滋味ある作品。

◎漢字条幅部総評 上級20字表現
は字配り等に苦労されたか。小ぶ
りな表現多し。下級を含め大小、
粗密の変化の工夫を。(大雪評)

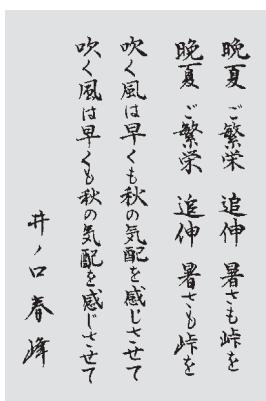
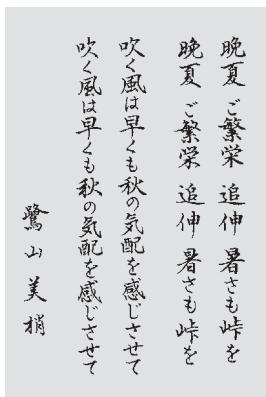
実用書優秀作品

選評 三浦 鄭 街

◎実用書部総評

出品作一点一点丁寧に拝見しました。半紙版またはB5版用紙にいかに配字し、書き手の意志を認められるかが大切かと思います。気持ちを込めて、す。布置巧みな安定作。

(鄭街評)



書き手の気合いを感じる作品です。
細部まで気持ちを切らさず見事です。

特選 井ノ口春峰

佳作(60書)		秀作(60書)		特選(60書)	
桜森澄大	香苑深大	A 紅瑤大	誠和大	大雲	大雲
草地春雲	枝葉深大	I 向葉大	千葉大	水塹	水塹
苗東土平屋村	奥川岡本小川	大雲波多野	大雲波多野	やま田玉	やま田玉
佳絹恵美	麗香玲奈	廣戸島山竹浪	葉山竹浪	伊澤中里	伊澤中里
蕙子仙楓	流香樟	松本波多良	松本波多良	香雨哲子	香雨哲子
う耕春五月	華祥吉	芳桂高崎	桂月高崎	星子	星子
瑤筆茎	古山	もく	もく	鷺山美梢	鷺山美梢
須新清篠	佐々木幸	附中阪岩石	附中阪岩石	井ノ口春峰	井ノ口春峰
田條水原	木妻	飯島飯島	飯島飯島	香雨	香雨
舟郎舟	楊和志	荒谷毛	荒谷毛	香	香
(選外)	千晴潤	桂蘭	桂蘭	甘雨	甘雨
459名氏	妙裕	智悦子	智悦子	彩香	彩香
名略	華恵	桂花	桂花	香	香
大雲会遠	玄雲街書	白も倉	も倉	耕た江	耕た江
須藤千恵美	書珠	も倉	も倉	高祥	高祥
高橋喜代美	か	吉	吉	碩舟	碩舟
高橋千代子	吉	カ	カ	大	大
翔琴				阪	阪
須藤千恵美				春光	春光

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 石井明子 東福青篁

小品の部

臨書

笨 瞳月
「温泉銘」

漢字 (素雪)

坂本芳博
「君去春…」



坂本芳博書

137×35cm

◆潤渴、連綿を活かした布置により美しい流れのある作品。用筆も巧みで落款まで優美な魅力作。(青篁評)



笨 瞳月臨

137×35cm

◆弾力に富み堂々とした筆致の臨書作。凜とした雰囲気と氣宇の大きさがすばらしい。(青篁評)

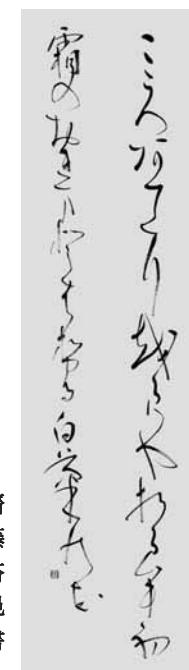
勒勞碑乃木銘基

かな (潮音)

齋藤杏邑
「こころあてに」

漢字 (素雪)

齋藤杏邑
「こころあてに」



齋藤杏邑書

137×35cm

◆迷いのないタッチで完成度の高い作品です。2行め前半の単調さを工夫するとさらに深みが増すかと? (明子評)

137×35cm

◆迷いのないタッチで完成度の高い作品です。2行め前半の単調さを工夫するとさらに深みが増すかと? (明子評)

現代詩文書 (四枝社)

大友四峰
「南国にて」



大友四峰書

137×35cm

◆行の流れの変化が、軽妙なりズム感を醸し出し、明るく楽しげな作。落款も自然でよい。(大雲評)

かな (潮音)

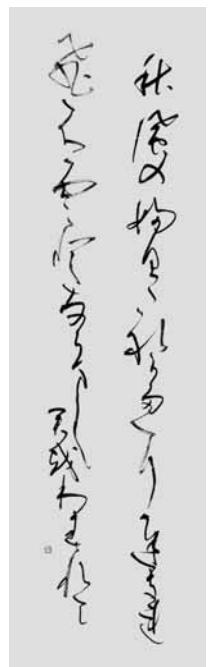
創作の部(38点)	漢字 - 4点	かな - 4点	現代詩 - 16点	漢字 - 13点	前衛 - 1点	篆刻 - 1点	漢字 - 16点	前衛 - 1点	篆刻 - 1点	漢字 - 13点	前衛 - 1点	
宗苑かな 茂木永屋中藤藤浦 絢水香恵一和楊英紅 秋仙葉栄風樹霞	大澄京華洞八街 春祥書玄穹 松土田加安三尾形 永屋中藤藤浦 香恵一和楊英紅 秋仙葉栄風樹霞	〔漢字〕 〔臨書の部〕 〔篆刻〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	関口 高野瑤紅雲趙前衛 高松大吉奥川笛梅田 野本友田卯木村 天峰	高紅蓮植花 野塔松蒼 高橋梅流 高橋麗 高橋蒼 高橋清珠 卯木村關泉 天峰關泉	〔前衛〕 〔篆刻〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔創作の部〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕	〔特選候補者〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕 〔漢字〕

総出品点数
75点

大作の部

かな
(如月)

治田芳江 「秋風の」



180×53cm

治田芳江書

◆大らかな動きが魅力の作品である。大胆な字粒の変化が
独特の世界を生み将来を期待させて楽しい。(明子評)

前衛書

(紅瑠) 佐藤成美 「燕」



170×62cm

佐藤成美書
(仙草評)

◆超濃墨の強韌な筆致で上部を引きしめ、下部への渴筆の
変化が躍动感にあふれ見事な作。全体にやや書き過ぎか。

臨書 (大雲) 鶯山美梢 「温泉銘」



35×190cm

(大雲評)

◆原帖をやや拡大し、
細部までよく観察し
た見事な臨書。線の
暢びやかさ、全体構
成とも申し分ない。

鶯山美梢臨

部分拡大



現代詩文書 (大雲) 長島僊雨 「米倉守の詩」



46×174cm

◆横形式で軽快
なタッチでスケー
ルの大きな作品
に仕上がってい
る。潤渴の変化
が表情豊かで魅
力あり。(仙草評)

長島僊雨書

英上「華華森大紅大紅千葉〔前衛書の部〕
峰かな」祥祥地雲瑤葉〔漢字〕
吉早「小玉東江金宮原澤〔臨書の部〕」
瀬部「泉渕平本みどり良絹興〔現代詩〕」
彩雨朗「潤章子舟り扇子舟〔漢字〕」
良絹興香敦叙〔漢字〕

「松墨紅容〔前衛書の部〕」
「洋瑤洲四谷〔漢字〕」
「桑栗阿木原〔漢字〕」
「西條島原部〔漢字〕」
「松有里邑尚子〔漢字〕」
「雲子か里子〔漢字〕」

「奥田高橋〔現代詩〕」
「藤井島中〔漢字〕」
「藤井清華〔漢字〕」
「山象〔漢字〕」
「香山〔漢字〕」

〔特選候補者〕
〔創作の部〕
〔漢字〕

67点

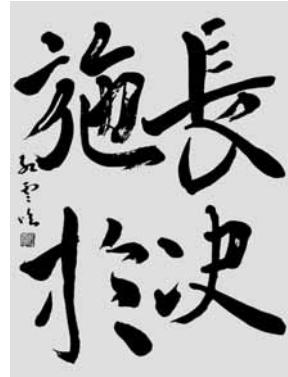
創作の部(38点)
漢字——3点
かな——9点
前衛——15点
漢字——26点
現代——11点
かな——3点

創作の部(38点)
漢字——3点
かな——9点
前衛——15点
漢字——29点
現代——11点
かな——3点

漢字研究部
(温泉銘)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



千葉紅雲



雅清美初美昭
泉香和江梢華

理彩照紅美潤
惠香子雨紬

惠祥藍初晴天
子扇水美美音

杏惠永雅雅清
邑芳篁悠芳耀

漢字研究部 特選 千葉紅雲
特徴を的確にとらえたスケールの大きな臨書である。原帖の、ハメを外しそうな字形ながらも絶妙のバランスで書かれている点も、しっかりと観察されていて見事。吊り筆部分の線の切れ味に更なる磨きを。

◎漢字研究部総評

今回の課題は、細字多字数での臨書はスケール大きくダイナミックな筆遣いを表現しにく

く、6文字の臨書は縦長の字形を再現しにく
いからでしょうか、4文字の臨書が圧倒的でした。半紙に臨書する場合、字形や書風の特徴をいかすために何文字書くか、またどの部分を選んで書くかは、作品の出来栄えに大きく影響します。その選択が適切にできるのも実力のうちと言えるでしょう。上位者の大多
数は臨書部分の選択が的確でした。

かな研究部 (一条摺政集)

運評 大辻 多希子

今月のホープ作品



後藤良泉

幸玉和
子江子

幹蘭萩
生舟雨

由香杏
紀子舟邑

清美朗
梢耀

高た誠澄わ有松
井か和春か秋村
秀

櫻梅鶴植伊石青
田津澤田藤川木
佳

和代琴紅幸洋玉
子舟雨子子枝

文筆
佳

青木
知子

上華

高高関春杉菅

遷華

66渡遊

高も千紅華高桜正 A 大菊甲干高清う竹麗 A 紅潮大上大颶
崎く葉瑠仙崎草華 I 雪月和葉崎月る美澤 I 琴音雲泉雲菱

小岡松藍菊二苗岡生高新高玉松境飯横須清須齋磯早驚後
峰部重澤地通代田方武井藤沢浦野高山藤水田藤貝部山藤

由 美加藤翠白惠麗佳麻美玄惠松幸玉和幹蘭萩紀香杏清
子瓊瑛珠水子惠美子城子美子江子生舟雨子舟邑耀朗梢泉

如大京東中大高長東高氷上晉 A 紅千卯竜千土澄華た春竹こ清う大瑞正明中
月阪橋伯川雲真月向崎穂泉田 I 風葉月泉葉氣春仙か汀美だ月る雲韻華漢川

六吉山三堀廣原昌根永中寺田種高鈴杉新篠猿佐櫻小小木河加金小大
貫波田本田切瀬澤山本井村原畠谷山橋木田行塚渡々田松林村合納田澤島

シ恵 寿木内 美智子子舟雲枝子香子子子城子泉子風華心右子舟子敬子優子鳳

恵明昌も高た白高長澄蓮上 A 紅琇た上幸青書桂や有琇書明八秀蕙高大童大こ書青澄椿
泉漢苑く露真月春紅京 I 風韻か泉扇蓮泉泉ま秋韻泉漢雲故書椿阪泉雲だ島泉蓮春翠だか街新
渡吉吉矢本松増増本本堀船浜萩野沼永中田武竹七島七椎坂酒小吳草北川片小小大梅岩井石生飯飯安阿東

邊田田種口柳村尾田田多江津 野原村田井村玉山内五條名本井林 剣爪本岡野川島原崎ノ橋田駒泉島藤天坊

千 有 美 美外
な松葵莎代信鶴翠藤登小陽希佳華美和幸代奈永洋幸奎伯笙哲花智和美裕光里知萩農真美南照朱輝昌虹裳春嘉悦萩洋律美洗花
月郷莉子代綾玉江堇子子秀雪枝景子子堇子城心泉景子美子美子江美華和汀德星峯子祥葵峰子花子子悠章子

上華玉白正富扁高明蘭菊正八大玉素澄樹蒼した秀大文蒼千有大東千こ華樹青雲玄わ正秀白土澄わ久紅澄誠和華八誠正こも大
泉祥院露華貴筆崎漢鼎月華生拙川雪春原陽か歌雲筆陽葉秋阪向桜こ祥原峰溪穹か華歌驚氣春か賀風春和平祥街和華だく阪

高高関春杉菅新清嶋島柴篠佐坂齋紺込小小黒熊熊久刑岸菅金加葛鹿香尾岡大江臼宇印岩岩入井板石石五新天
木木根原浦原條水 田 田田藤藤本藤野山林池柳谷井保部本野子藤藤 島川形本蓼野口井東剣田瀬谷上垣渡崎川十井羽多

木木美幸与惠 あす か み か
代昭代慶幸昌三幸祢貴悦洋美陽綾芳翠遊美見直竹紫宏智裕萩靜美翠雅惠裕翠紅 か鶴茉綾楠正祥代祥悠英青翠甘津佳藤子
子華子子子子子子子奈博香山艸代子葉蘭子美美茜代千陽芳美子漢霞柚り子悠乃麗惠安子園花二鳳徑兩子栄雪子

遷正蓮華幸や玉椿竹桜八春声大墨石幕白掃も有『澄大長椿華 蘭正千は土大泉誉一大大
華紅仙扇ま川翠美草街汀香雲宣習張露雪く秋』春阪月翠祥 鼎華葉せヤ茨阪会田葦雲阪 わも春堺た掲泉恵華高天正玉桜
外

66渡遊山山山谷八守村官宮三真松古福福深深廣平平樋林林浜長野名永中中中中中都戸渡利樋津辻田竹武田龍高
名辺佐本木口知鳴木友上異内浦庭丸島谷富田堀澤地山山口尾 野谷村定田村村林西江丸部子守泉田 村井井口田原橋

裕眞橋志満タ由 さか か 喜 み か
名略 紅美梅律美砂紀津佳津成道ケ愛翠美枚愈流清佳美だつ玉は雅美ふ久奈萩時保一清恵よ愛藤紀佳雪李洋恵香一代颯貞美
優雅楓香子子子舟子月枝子子ミ石舟子子子源洗月幸子子葉る子子で子々香子子琴香子子理風子理風子石華江子菱子好

かな研究部 総評
一条摺政集の特色は、文字が小さく、連綿が長いことです。連綿線のなかの転折鋭く、次への筆連綿では、筆先を捻轉し、速を加えながら運筆し、単調な線にならないよう注意。

誤字は殆どありませんでした。文字が小さいめか、線の弱い作品もありました。渴筆が長く続

めか、線の弱い作品もありました。渴筆が長く続

く連綿では、筆先を捻轉し、速を加えながら運

筆し、単調な線にならないよう注意。

特選 後藤良泉

●篆刻

【十一月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①墓刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出典の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



10月号 墓刻課題

- 印面の大きさは3.4cm（八分角）以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

<特選>



「雀壽」

墓刻

724号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一一一六一七
東神田プラザビル三階
101-0031 電話(03)386-11954
FAX(03)386-211957
※お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

公益財團法人書道芸術院



「公生明」

創作

◎篆刻部総評

特選 小野寺幸喜 何よりも運力が秀でている。
佳作 (60音)
原印の観察もよく、好摹である。

特選 金谷皓洋 全体に、もう一息の感はあるが文字構成に作者の実力を見た。

今回は墓刻作品に秀でた作品が多く、出品者各位の熱意が伝わってくる思いがした。さらに研鑽を積まれる様、期待する。

(大峰評)

(墓刻)

大雲	秀	特選	芳琴	作 (60音)
粹仙	中日	秀	小野寺幸喜	作 (60音)
藤井	林	小沢	遊雲	高真
龍仙	能喜	華仙	硯水	久保村豪峰
生大	淳一	華喜	片岡	中川
(選外なし)			遊雲	鶴淵
宗苑	大雲	秀	高真	天峰
茂木	佐藤	作 (60音)	久保村	亜希
橋本	中畠	特選	豪峰	研治
絢水	清麗	佳作 (60音)	天峰	
声香	義則	入選 (50音)	亜希	
富見	游水	入選 (50音)	研治	
空	遊雲		雅慈	
荒川	赤星		隆子	
宮内	坂本		華雨	
成子	野木		美翠	
紫蘭	覚山		香雨	
(選外なし)			隆子	

(創作)

石心	秀	特選	小映	佳作 (60音)
やま	生大	作 (60音)	金谷	皓洋
茂木	佐藤	特選	皓洋	
橋本	中畠	佳作 (60音)		
絢水	清麗	入選 (50音)		
声香	義則	入選 (50音)		
富見	游水			
空	遊雲			
荒川	赤星			
宮内	坂本			
成子	野木			
(選外なし)				

定価

一部 七五〇円

一部の購読部数が
送 料

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は
送料免除

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和三年九月二十五日印 刷
行 発 行
（毎月一回一日発行）書道芸術 第七二六号

編集兼
发行人
印 刷
印 刷
發行所
發行所
101-0031
電話(03)386-11954
FAX(03)386-211957
振替 00150-4115055
ホームページ http://www.lms.co.jp/shogei/